

JAPIC NEWS

8 2006.
月号
(No.268)



CONTENTS

《巻頭言》

「医薬品情報の未来」.....2

日本新薬株式会社代表取締役社長 初山一登

《お知らせ》

新刊発行案内

JAPIC一般用医薬品集2007 4

JAPIC医療用医薬品集2007 CD-ROM付 4

JAPIC医療用医薬品集インストール版2006年7月版 5

第126回薬事研究会開催案内 6

《トピックス》

「第8回JAPICユーザ会」開催報告(Ⅱ)

事例報告(大阪) JAPIC情報活用事例 (社)兵庫県薬剤師会 藪下圭子.....7

参加記 (東京) 武蔵野大学薬学部 大室弘美.....11

参加記 (大阪) 京都薬品工業株式会社 川井美和.....12

伊勢原市の中学生JAPICを訪問 14

新入会員機関 14

《シリーズ》

東南アジアの医療事情(4) ラオスの薬事情—薬物問題—.....15

NPO-DEFC共同代表 沢田誠二

《図書館だよりNo.194》.....20

《7月の情報提供一覧》.....23

《 卷 頭 言 》



医薬品情報の未来

日本新薬株式会社 代表取締役社長

初山 一登 (Kazuto Hatsuyama)

(JAPIC 理事)

我が国においては未曾有の少子高齢化社会を迎え、医療保険制度の本質的変革が迫られると共に、医薬品に対するニーズも多様化するものと思われます。患者さんを中心として医師、薬剤師、製薬企業などあらゆる医療従事者が医薬品情報を如何に共有し、医薬品を適正に使用するか、この一点に焦点を合わせることが大切です。

安全情報の収集と提供を疎かにすると、医薬品の適正使用に大きな障害となります。医薬品は人類共通の知的財産であり、付帯する医薬品情報も人類共通の知的財産です。この知的財産を形成するには継続的に情報収集する必要があります。全ての医薬品には併用する新医薬品との相互作用や併用禁忌など常に新しい医薬品情報が発生しており、その収集と提供に不断の努力が必要です。1錠の中にギッシリ詰った科学的な医薬品情報こそが医薬品の価値であり、人類共通の知的財産だと考えます。

その安全情報の提供方法としては、現在添付文書を始めとして様々な媒体が用いられています。製薬企業は、一般的にはMRを通じて各医療機関の医師や薬剤師に情報を提供しています。また、各医療機関は、MRからのみならず独自にインターネット等を利用し、積極的に情報収集するとともに、JAPICの「医療用医薬品集」を始めとした各種のデータベースを利用し、患者さんへの情報提供をより精度の高いものにしていきます。

最近は特に、医薬品の安全情報への関心が高く、その要望は医療従事者のみならず、患者さん自身が詳細かつ高度な情報を強く求めています。また、医薬分業が50%を越え進展している現状は、従来の安全情報の提供先や方法を再考しなければならない状況になっています。更に、健康食品・各種サプリメントの日常的普及は、医薬品情報の内容と提供方法に複雑な要因をもたらしています。従来、処方する医師を中心として医療機関に重点を置いた安全情報の提供は、調剤薬局の薬剤師がくすりの専門家として患者さんへの直接窓口となっている現状から、同じように重点的な安全情報の提供をしていく必要が生じています。この傾向は、更に拡大するものと考え

られ、製薬企業は新たな対応を考慮しなければならないと思います。医師、薬剤師、製薬企業など全ての医療従事者の協力による積極的な最新安全情報収集はもとより、その安全情報の提供方法、提供手段、提供ルートなども再検討の時代ではないかと思われます。

情報は活用されてはじめて価値を持ちます。医薬品情報の未来を考えると、活用されるための仕組みや内容の在り方について指針作りを考えるべきだと思います。医師の立場では、忙しい診療の中で医薬品情報を理解するには、専門家としてポイントとなる点が要領よく分かり易く、タイムリーに情報提供されることが必要です。一方で詳細な医薬品情報は、論文原本や副作用報告原本まで辿れるネット上のシステムも必要だと思います。

薬剤師の立場では、煩雑な調剤作業の中で医薬品情報は分かり易く、簡潔に患者さんに説明でき、医師の治療内容と安全情報を適確にバランスよく患者さんに伝えられるよう配慮された情報が必要です。患者さんの立場では、医薬品情報は単に不安をかきたてる情報ではなく、副作用などへの対処法や心構え、副作用のリスクと治療効果のベネフィットを分かり易く理解でき、治療に前向きな意欲を示す事ができるものを望んでいると思います。

患者さんの苦痛と不安を取り除くために、専門家である、医師、薬剤師、製薬企業によって、医薬品は最善の適用をなされなければなりません。医薬品情報はこの四者を繋ぐ大切な共有情報です。コミュニケーション手段が著しく発達している現代で、集められた医薬品情報をどう編集し、どのように発信すべきか医師、薬剤師、製薬企業のみならず、JAPIC などの医学情報の専門分野の方々も交え、未来に向けた在り方を考える時機ではないでしょうか。



Information

お知らせ

お待たせいたしました！ 一般用医薬品集の定本

「JAPIC 一般用医薬品集 2007」8 月上旬発刊

「青ジャピの次の発刊はいつでしょうか？」とのお問い合わせをたくさんいただきました。ユーザの皆様には大変お待たせをいたしました。いよいよ“JAPIC 一般用医薬品集 2007”を 8 月上旬に発刊いたします。青ジャピの最大の特長である類書を圧倒する製品数（約 11,000 製品）を十分活用できるよう、**特に見やすさに重点を置き、紙面を大刷新**いたしました。今この機会に、ぜひご購入くださいますようお願いいたします。

《 JAPIC 一般用医薬品集 2007 の特長》

- ☆ 国内流通のほぼすべての医薬品、約 11,000 品目を網羅
（2006 年 3 月調査に基づく）。
- ☆ 本文に全製品の組成・効能・用法データを記載、新一般用医薬品を中心に添付文書全文を収載。
- ☆ 付録には、従来の基準や製薬会社の住所録に加え、最新情報である“一般用医薬品成分のリスク分類一覧”、一般用医薬品を新たな切り口で見る“ブランド名別成分比較表”を追加。
- ☆ 価格を¥9,450（税込）へ大幅値下げ
〔従来の¥17,850（税込）の約半額〕



「JAPIC 医療用医薬品集 2007 CD-ROM 付」

9 月発刊！

ご好評をいただいている“JAPIC 医療用医薬品集 2007 CD-ROM 付”（赤ジャピ）を 9 月初旬に発刊いたします。今版においても、本誌においては**後発品情報を収載**する等、収載医薬品情報を更に強化すると共に、**医療用薬・一般用薬情報等を収録した CD-ROM（非インストール版）**を付録として添付いたしました。ぜひご購入くださいますようお願いいたします。

《 JAPIC 医療用医薬品集 2007 の特長》

- ◇ 2006 年 7 月薬価基準追補収載分までの医療用医薬品を網羅（約 17,000 製品）。
- ◇ 有効成分ごとにまとめて記載し、該当製品をコンパクトに示すと共に、製品間の適応・用法の違いを簡潔に記載。
- ◇ 付録として医療用薬・一般用薬・医療用薬識別コード情報等を収録した CD-ROM（非インストール版）を添付。また、本誌に効能から医薬品をまとめた薬効別薬剤分類表を収載。
- ◇ 価格を昨年から更に値下げし¥13,650（税込）に。
- ◇ ユーザサポートとして薬剤識別コード一覧（無償）、更新情報シール（有料）を提供。



薬価追補収載品・一般用薬データを更新した

「JAPIC 医療用医薬品集インストール版 2006 年 7 月」新発売！

“JAPIC 医療用医薬品集インストール版”（CD-ROM）の 2006 年 7 月版を 7 月末に発売しました（年 4 回発行）。7 月版においては**収載データの全面改訂**を行いました。医療用医薬品データでは**薬価追補収載品（いわゆる後発品）**を反映した薬価データ、添付文書情報も収載しております。また、一般用医薬品データは本年 3 月に実施した**一般用医薬品調査に基づきデータ更新**を行っております。最新医薬品情報を常に網羅する“JAPIC 医療用医薬品集インストール版”をぜひご利用ください。本 CD-ROM（Win・Mac 両対応）の仕様は次の通りです。

★収載データ

医療用医薬品データ：2006 年 6 月末までの JAPIC 入手分、および平成 18 年 7 月薬価追補収載品を反映した医療用医薬品添付文書情報・薬剤識別コードデータ及び薬価データを収載。

2006 年 7 月版における新規収載項目

新規項目（医療用医薬品集出現順）	製品名及び製造販売会社名
ビタミン B ₁ ・糖・電解質・アミノ酸製剤	ビーフリード 株式会社大塚製薬工場 他 2 製品
アリピプラゾール	エビリファイ 大塚製薬株式会社
硫酸クロピドグレル	プラビックス サノフィ・アベンティス株式会社
シロドシン	ユリーフ キッセイ薬品工業株式会社
塩酸セルトラリン	ジェイゾロフト ファイザー株式会社
コハク酸ソリフェナシン	ベンケア アステラス製薬株式会社
酒石酸トルテロジン	デトルシトル ファイザー株式会社
ホリトロピン アルファ	ゴナールエフ セローノ・ジャパン株式会社
レトロゾール	フェマーラ ノバルティスファーマ株式会社

一般用医薬品データ：2006 年 3 月一般用医薬品調査に基づいた更新データを収載

★搭載機能

自由語検索として医療用薬、一般用薬、その両方の同時検索機能及び（医療用薬）薬剤識別コード検索機能を搭載し、添付文書本文情報を表示します（参考情報として医療用医薬品添加物データ表示機能、iyakuSearch 収載医療用薬添付文書 PDF のリンク・表示機能を搭載）。

また、医療用医薬品本文内容を取り込んで院内採用医薬品集として編集でき、その編集内容を共有あるいは次版へ引き継ぐことができます。→JAPICHPにてYJコードリストから採用品への一括登録ツールを無償提供しております。こちらもご利用ください。



★価格・お申し込み

1枚 15,000 円（税・送料込）、あるいはお得な年間セット（1・4・7・10 月版のセット）を 25,000 円（税・送料込）で提供いたします。また、複数台をお申し込みの方は廉価で提供いたします。購入ご希望・お問い合わせは、事務局 業務・渉外担当（TEL：03-5466-1812、FAX：03-5466-1814）までご連絡下さい。

第 126 回薬事研究会 開催案内

薬事研究会を下記により開催致しますので、貴社ご関係の方々にご連絡のうえ多数ご参加いただきますようご案内申し上げます。

2006 年 6 月 8 日に、薬事法が改正されました。今回の薬事法改正は、一般用医薬品をリスクに応じて分類し、区分ごとに販売方法を定める等、医薬品販売の制度を抜本的に見直すものであり、3 年間の経過措置の後、施行されることとなります。今回は、この点を踏まえた内容で企画しました。

日 時	平成 18 年 8 月 28 日（月） 13:30～16:00	
場 所	津田ホール （東京都渋谷区千駄ヶ谷 1-18-24） 03-3402-1851	
講 演	「医薬品販売制度改正について（仮題）」 厚生労働省医薬食品局 「医薬品のリスク分類と販売規制（仮題）」 日本薬剤師会	
参 加 費	1 名 3,000 円（JAPIC 会員機関の方） 当日会場でいただきます	
申込方法等	JAPIC ホームページ（ http://www.japic.or.jp ）に掲載の申込書に必要事項をご記入の上、メール（ gyoumu@japic.or.jp ）または FAX（03-5466-1814）にて平成 18 年 8 月 21 日（月）までにお申し込み下さい。	

第8回 JAPIC ユーザ会事例報告・大阪

JAPIC 情報活用事例

(社) 兵庫県薬剤師会 薬事情報センター
簗下 圭子

◆薬事情報センターの業務内容紹介

JAPIC 情報活用事例報告の前に、(社) 兵庫県薬剤師会・薬事情報センターについてご紹介致します。薬事情報センターの主な業務内容は以下のとおりです。

1. 医薬品等に関する相談受付
2. 蔵書管理
3. 新聞管理
4. 日本薬剤師会および他県薬剤師会、その他の団体発行開始の管理
5. 各メーカー添付文書および添付文書改訂のお知らせ、インタビューフォーム等の管理
6. その他（各種情報委員会・学術大会出席、ホームページ管理、PL 相談など）

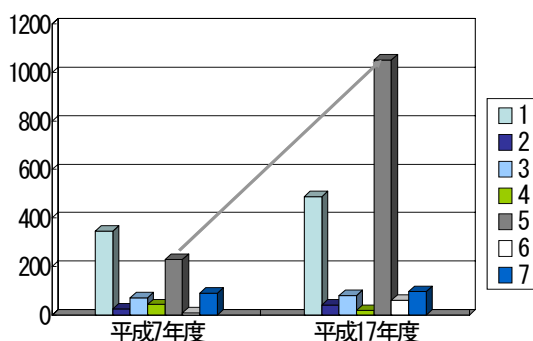
◆薬事情報センター利用状況報告

今回は、平成7年度と平成17年度を比較してみました。質問者総数で言えば（図1）、平成7年度が818件であるのに対して、平成17年度が1,843件と、この10年間で倍以上の増加となっております。

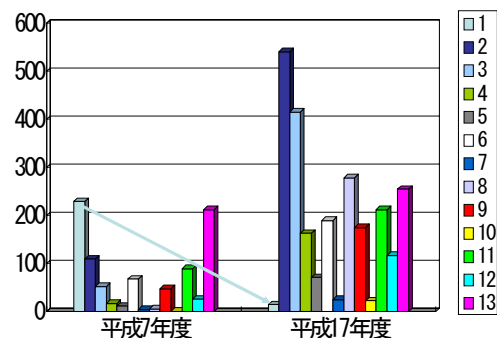
中でも一般消費者からの問い合わせが際立って増加しております（平成7年度：230件、平成17年度1,051件）。これは、昨今の「情報開示」という流れが影響してなのか、今まで見えていなかったものが見えるようになると、理解が深まるということに加えて、今まで抱かなかった疑問や不安も併せて現れてきた結果なのかも知れません。

質問内容総数でも同様に、10年間で増加しておりますが（図2）、「薬剤識別」に関する情報だけは減少傾向にあります。最近では「薬のしおり」といった形で患者さんにお渡しする薬情を作っておられる医療施設が多くなって参りました。また、薬剤のPTPシートやヒートシールに商品名を記載するメーカーさんが最近では殆どだと思います。更に、インターネットでも識別記号から商品名を検索出来るサイトが多数存在します。このような理由から「薬剤識別」に関する問い合わせが減少していると考察します。

(図1)



(図2)



◆情報入手手段

問い合わせを受けた際、利用する術として「学術雑誌」「書籍」「業界紙」「インターネット」などが挙げられます。中でも「インターネット」による情報は、時事ネタ（昨日今日、報道された内容）に強く、真っ先に利用する手段です。しかし、この場合、注意しなければいけないのが、情報の信頼性の有無をみるためにも、その情報の源は一体どこからなのかの確認が必須であるということです。「具体的データがない」「研究者が不明」など、信頼出来ない情報は、意味がないだけでなく、逆に危険です。

それでは、どうすれば信頼のおけるデータを探し出し、入手することが出来るのか…、それは「信頼のおけるデータが集積されているデータベースを利用すること」です。

◆国内の主な情報データベース

主なデータベースをご紹介します。

1. 厚生労働省ホームページ
2. 医薬品医療機器情報提供ホームページ
3. 文献索引データベース BUNBUN（一般非公開、利用者制限あり）
4. 医薬品情報データベース iyakuSearch

その他にも「健康食品の安全性・有効性情報（独立行政法人国立健康・栄養研究所）」「おくすり検索（日本大衆薬工業協会）」「適応外使用医薬品データベース（東京理科大学薬学部社会・情報薬学研究室）」などのデータベースが公開されております。

◆事例報告

今回は、2つの事例をご紹介します。

事例1. アガリクスの安全性について教えて欲しい（当会会員薬剤師より）

(図3)



国内の有用なデータベースは数多くありますが、今回は「iyakuSearch」を利用した事例を紹介致します。図3は「iyakuSearch」のトップ画面です。データベースの内容は、以下の6項目となっています。

1. 医薬文献情報
2. 学会演題情報
3. 医療用医薬品添付文書情報
4. 一般用医薬品添付文書情報
5. 規制措置情報
6. 臨床試験情報

今回は「医薬文献情報」を利用した事例を報告致します。

今回は、検索語として「アガリクス」と入力して「検索ボタン」をクリックするだけで OK という最も初歩的な手法である単純検索方法で検索致しました（図4）。単純検索は、キーワードを上手く選択することさえ出来れば、初めての方でも簡単に出来るかと思います。

もし「学会演題情報」で検索したい場合、もしくは「医薬文献情報」と「学会演題情報」の両方で検索したい場合は、キーワード入力欄の下にあるチェックボックスを変更するだけでOKです。

ヒット数が多い等で絞り込んだ検索をしたい場合は、2語以上のキーワードで検索する and 検索を利用したり、文献が掲載されている雑誌の発行年月を指定したりするとよいでしょう。

(図 4)

図4は、iyakuSearchデータベースの検索画面のスクリーンショットです。検索キーワードは「アガリクス」です。検索範囲は「医薬文献・学会演題」に設定されています。検索ボタンが赤い円で囲まれ、赤い矢印で指されています。

(図 5)

図5は、検索結果のスクリーンショットです。11件の結果が表示されています。2つの結果が赤い円で囲まれ、赤い矢印と「チェックボックスにチェックを入れた後クリック！」という注釈で強調されています。

検索結果表示	11件該当	ページ 1 / 1
☐ 1件目 抄録番号: 430014146 題名: 特定の保健用食品のなかで医薬品との併用で健康を損なう可能性がある組み合わせ、健康食品の安全性 (ウコン、アガリクス)。 著者名・所属: 松井 輝明 医学部日本大学医学部薬学系薬理学第1科 雑誌名: 医学のあゆみ 211 (8) 801-803, 2004.	(中略)	
☒ 2件目 抄録番号: 430014055 題名: アガリクスによる薬剤性肺炎の1例 著者名・所属: 本多 宣裕 呼吸器科 新潟県立総合医療センター 呼吸器科 新潟県立総合医療センター 雑誌名: 日本胸部臨床 62 (11) 1027-1031, 2003.	(中略)	
☒ 3件目 抄録番号: 430014055 題名: アガリクスによる薬剤性肺炎の1例 著者名・所属: 本多 宣裕 呼吸器科 新潟県立総合医療センター 呼吸器科 新潟県立総合医療センター 雑誌名: 日本胸部臨床 62 (11) 1027-1031, 2003.	(後略)	

キーワード「アガリクス」をデータベース「医薬文献情報」のみで検索した結果のヒット数は11件でした(図5)。この11件の中に興味深い文献が2つありました。

しかし、残念ながらフリーで誰でも利用出来るのは、この段階までです。抄録が見たい、複写を依頼したい、という場合は、会員登録が必要です。

既にサービス利用の登録をしている場合は、表中左上のチェックボックスにチェックを入れた後、「文献抄録表示ボタン」をクリックすることで閲覧出来ます。

今回、有意な情報として得られた2つの文献の概要は以下のとおりです。

- 文献① 標 題：食の安全と疾病 機能性食品と食の安全
 著者名：松井輝明
 雑誌名：医学のあゆみ 211 (8) 801-803, 2004.
 抄 録：特定保健用食品のなかで医薬品との併用で健康を損なう可能性がある組み合わせ、健康食品の安全性 (ウコン、アガリクス)。
- 文献② 標 題：アガリクスによる薬剤性肺炎の1例
 著者名：本多宣裕
 雑誌名：日本胸部臨床 62 (11) 1027-1031, 2003.
 抄 録：症例 (男 68 才) は基礎疾患に肝硬変、肝癌があり、家人にすすめられアガリクスを服用したところ、約2週間後に呼吸困難が出現した。(中略) 原因薬剤はアガリクスと考えた。(後略)

事例 2. アンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬と ACE 阻害薬の併用意義について教えて欲しい（当会会員薬剤師より）

基本的な検索方法は「事例 1」と同じ手順で行いましたが、今回は「絞り込み検索」を行いました。その流れは以下のとおりです。

キーワード：「ARB」「ACE」	⇒	ヒット数：315 件
キーワード：「ARB」「ACE」「併用」	⇒	ヒット数：142 件
キーワード：「ARB」「ACE」「併用療法」	⇒	ヒット数：47 件
キーワード：「ARB」「ACE」「併用療法」「意義」	⇒	ヒット数：5 件

絞りこみ最終段階で得られた 5 つの文献の標題は以下のとおりです。

- 文献① 高血圧－最新の診療－主な降圧薬の特徴と使用法上手な降圧薬の併用療法
- 文献② 高親和性 AT1 レセプターブロッカー「オルメサルタンメドキシミル」の基礎と臨床－高血圧治療の新たな流れ－各疾患別の ARB の位置づけ 9. ARB を基本にした併用療法の意義－降圧目標達成 臓器保護作用増強のために－
- 文献③ 慢性心不全の病態と治療戦略－エビデンスへの確立を目指して－心不全の薬物療法 アンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬の心不全治療における意義
- 文献④ 第 35 回志摩循環器カンファレンス 薬効から心不全を考える ARB と ACEI はなぜ効くか
- 文献⑤ アンジオテンシンⅡ受容体と受容体拮抗薬（ARB）の最新研究動向－ARB の臓器保護－ARB の臨床研究の進歩 慢性進行性腎疾患における ARB と ACE-I、ARB と CCB 併用療法

◆情報の流れ

医療界に限らず、全ての分野において「情報の入手手段」は変わりつつあります。以前は、情報とは「もらうもの」という受動的なものが一般的でした。

しかし、現在は違います。自分で探し求めて入手する術が出来ました。「インターネットによる検索システム」です。開示されている情報であれば、自らが検索して探し出し、見つけられればその時々の形式に従って入手することが出来るようになりました。

よって、現在では、情報とは「自らが取りにいくもの」という能動的なものに変わりつつあると思っております。その為にも、信頼性のあるデータベースの内容充実を強く望むところです。

◆最後に

「信頼のおける情報があるのかどうか判らない」といった場合、また「情報があるらしいが、それがどこにあるのか、何に掲載されているのか判らない」といった場合、また「見つけ出した情報を入手したい」といった場合は、「iyakuSearch」をはじめとした種々のデータベースを利用すると、日常業務が円滑になるのではと思います。

薬学教育における JAPIC の役割

武蔵野大学薬学部及び薬学研究所

大室 弘美

本年 3 月まで医薬品の承認審査関連業務に従事しており、業務の遂行上、医薬品情報を適切に収集することが必要でした。このため、JAPIC の Daily mail により迅速に提供される医薬品情報は大変役立ちました。

ご存知のように、医薬品はその治療・診断の対象となる疾患についての有効性や安全性の情報が化学物質等の物質に付加されたものですので、適切な医薬品情報なしに医薬品の適正使用はできないわけです。このため、臨床現場の薬剤師には、迅速な医薬品情報の収集、その情報の信頼性のみきわめと評価、また、必要としている場に適切に情報を提供するという能力が要求されます。

本年 4 月から大学薬学部において医薬品情報学等の教育を担当することになり、上記のような能力を持つ薬剤師の育成に携わることとなりました。このため、6 月 7 日に長井記念館ホールにて開催された第 8 回 JAPIC ユーザー会には、医薬品情報学の教育に役立つ情報を得る目的で参加させていただきました。参加者は約 100 名程度で製薬会社の医薬品情報関連業務の方がほとんどで、教育機関からの出席者はほとんどいなかったように思います。

JAPIC ユーザー会では、①平成 16 年 10 月から開始された JAPIC 医薬品情報データベース「iyakuSearch」の利用件数が増加し、ますます活用されていること、②平成 17 年度には臨床試験情報、一般用医薬品添付文書情報及び新薬承認審査報告書データベースが追加され、16 年度の医薬文献情報、学会演題情報、規制措置情報（これのみ会員のみ利用可）、及び医療用医薬品添付文書情報データベースを含め計 7 種類の情報が利用できるようになったこと、③商品名、有効成分名、会社名からの検索も可能になり利用者指向型の検索画面になったこと、また、④データ数については、医療用及び一般用医薬品添付文書でそれぞれ 12,987 件及び 7,920 件が収載され、月 2 回更新されていること等がわかりやすく発表され、また、「iyakuSearch」活用事例の報告等もあり、研究開発から市販後の適正使用まで幅広い医薬品情報の提供が可能となっていること、つまり、JAPIC の有用性がよくわかりました。さらに、MedDRA についてのご講演では、MedDRA 用語のグループ化や既存用語集との関係等がわかりやすく説明され、有意義なものでした。

このような JAPIC から提供されている医薬品情報を医薬品情報学の講義に利用することを考えております。実際には、有料で配信される Daily mail ではなく無料で会員に配信されている Weekly mail や新たに JAPIC で利用可能となった医療用医薬品添付文書情報、一般用医薬品添付文書情報、また新薬承認審査報告書等の利用方法も含めて、情報収集方法や評価、伝達方法等を教えたいと考えています。また、関連研究会等があれば是非参加させて頂き、up to date の情報を学生に提供したいと思っています。



（東京会場）

JAPIC ユーザー会に参加して業務内容をお伺いし、JAPIC は医薬品の適正使用等に関する情報提供について十分目的を果たしていると思いました。最後に御願いになりますが、それに加えて今後は薬剤師の教育現場でも役立つようなサービスもしていただければと思います。例えば、情報の収集から情報の配信を行う JAPIC の実際の業務に学生が触れる機会を設けていただければ、医薬品情報の重要性やその収集及び活用について理解がより深まると考えます。

今後の皆様のさらなるご活躍をお祈り申し上げます。

第 8 回 JAPIC ユーザー会 6 月 9 日（大阪開催）参加記

iyakuSearch の新しい利用法

京都薬品工業株式会社

医薬情報部 川井 美和

私は昨年より医薬情報部で市販後副作用等検討・報告の業務に携わっており、添付文書情報や文献検索で JAPIC の iyakuSearch を頻繁に利用させていただいております。今回、初めて JAPIC ユーザー会に参加しましたので、その感想を述べさせていただきます。

JAPIC 平成 18 年度新規事業・重点化事業について

平成 17 年度主要事業の概括および平成 18 年度新規事業・重点化事業のご説明がありました。医薬業界に限らず、社会全体で情報の開示・提供が求められている現在、JAPIC も昨年に引き続き医薬情報提供に関する多くの事業を計画されていることに感心しました。重点化事業の一つに iyakuSearch 上で公開している一般用医薬品の添付文書の更新がありますが、私も以前からぜひもっと多くの添付文書を掲載していただきたいと思っていました。インターネットは現在とても普及しており、簡単に閲覧できるため、多くの医療関係者の方々や一般消費者様に一般用医薬品の情報を提供でき、とても有用だと思います。また、臨床試験情報データベース（JapicCTI）（臨床試験（治験）および非治験）の計画および結果についての情報が昨年開始されましたが、特に医療関係者の方々にとって非常に興味深い情報が掲載されていると思われ、今後も更なる情報量の増加が期待されます。



（大阪会場）

JAPIC 情報活用事例について

兵庫県薬剤師会 薬事情報センターの藪下先生より、普段の業務のご紹介と、その中で iyakuSearch をどのように活用されているかをご講演いただきました。業務の一つとして医療関係者の方々や患者様からのご質問にお答えされており、求めている情報が掲載されている書籍が不明なときや、up date な話題について信頼できる情報が欲しいとき等にデータベースをよく利用されているそうです。iyakuSearch の医薬文献情報データベースは、他では収集しにくい健康食品に関する有害事象の情報を検索するときにも活用できるとい

うことでした。また、検索語の追加・変更が簡単なので、求めている情報が含まれていそうなものをヒットさせやすいことも利点であるということでした。私は **iyaku Search** をほとんど添付文書情報検索や自社製品に関する文献検索の目的でしか利用したことがありませんでしたが、このように医療関係者の方々が治療や副作用に関する情報検索のために利用されていることを知りました。私たちも副作用情報を検討するときにその疾患や併用薬に関する情報を検索する、という新しい利用法を発見できました。

特別講演「MedDRA 及び MedDRA/J 概要と最近の動向」について

日本公定書協会の櫻井様より上記の内容でご講演いただきました。私も普段から副作用情報を報告・整理するときに **MedDRA** を利用させていただいており、今回は **MedDRA** の最近の動向に関して興味深くお聞きしました。**MedDRA** の器官別大分類 (SOC) は原則的に多軸構造がとられていますが、臨床検査 SOC のように一部単軸構造がとられている SOC について現在の検討課題の一つになっているというお話がありましたが、私も普段の業務の中で、疾患とそれに伴い変動する検査値を **MedDRA** 内で結びつけて捉えることができればいいのになぁと思っていました。たとえば「PT: 血中アミラーゼ増加 (臨床検査 SOC)」という副作用が報告されたとき、**MedDRA** 内で「PT: 急性膵炎 (胃腸障害 SOC)」と関連付けられていればその疾患の可能性があることがわかりやすいと思います。**MedDRA** は医薬社会において用語統一のためになくてはならないものであり、社会の変化に応じて **MedDRA** も適切にメンテナンスされていく必要があります。そのためには、私たちユーザから積極的に意見を申し上げることが大切だと思いました。

全体を通して

初めてユーザ会に参加し、JAPIC の事業内容のご説明や **iyakuSearch** 活用事例のご講演等を聞くことができ、JAPIC に関する理解が深まりました。また、懇親会で他社のユーザの方々や JAPIC のご担当者の方々とお話をさせていただき、有意義で楽しい時間を過ごさせていただきました。ありがとうございました。大阪でユーザ会を開催されるようになったのも、ユーザからの希望に応じていただいたからだとお聞きしました。これからもこのような意見交換の場を設けていただき、より良いサービスを提供していただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

* お詫び

(JAPIC NEWS 7月号 No.267)表紙に誤りがございましたので訂正してお詫び申し上げます。
「第8回 JAPIC ユーザ会」開催報告参加記 (II) メディセオ・パルタックホールディング株式会社 柘植典子氏の所属、お名前は (株)メディセオ・パルタックホールディング 柘植典子氏が正しい表記です。

ご本人および関係者の方々には多大なご迷惑をおかけし、大変申し訳ございませんでした。ここに訂正させていただきます。

伊勢原市の中学生 JAPIC を訪問

7月18日に神奈川県伊勢原市の自修館中等教育学校の2年生6名が高橋敏先生に伴われ来訪されました。校外学習の一環として JAPIC の活動を含め、医薬品のできるまで、医薬品の適正な使用における医薬品の情報と JAPIC の役割について学んでいきました。



新入会員機関

新たにご入会いただきました

(敬称略)

(1) 薬局・クリニック等 (G 会員) (5 月～7 月)

- | | | |
|-------------------------|-------------------|-------------|
| 1. 明美薬局 | 16. 應天堂内科中田町クリニック | 32. あだち薬局 |
| 2. 近岡小児科医院 | 17. 小泉クリニック | 33. 舎人クリニック |
| 3. 松之山薬局 | 18. 青山胃腸科内科クリニック | |
| 4. 山口医院 | 19. 大井戸診療所 | |
| 5. 高柳内科消化器科 | 20. たねだ皮膚科クリニック | |
| 6. ファーマシーでぐち | 21. 益田内科医院 | |
| 7. 勝北診療所 | 22. 山本クリニック | |
| 8. ツルオカ薬局 | 23. 富士薬局 | |
| 9. 日横クリニック | 24. 新川クリニック | |
| 10. 仁静堂医院 | 25. 服部内科医院 | |
| 11. 金英幸内科・
消化器科クリニック | 26. 杉浦眼科 | |
| 12. すがわクリニック | 27. ファーマシー了生薬局向山店 | |
| 13. 豊明団地診療所 | 28. 藤本クリニック | |
| 14. 金森医院 | 29. なりみやクリニック | |
| 15. 近藤医院 | 30. 峡北調剤薬局 | |
| | 31. 仲本内科 | |

(2) 製薬企業会員 (6 月～7 月)

- ☆ シンバイオ製薬株式会社 ☆ バイオジェン・アイデック・ジャパン (株)

(3) 大学会員 (7 月)

- ☆ 就実大学薬学部

ラオス薬事情 - 薬物問題 -

沢田誠二 (NPO-DEFC 共同代表)

著者紹介

e-メール sssawada@mvd.biglobe.ne.jp

ホームページ <http://www5e.biglobe.ne.jp/~higeji-/laos/>

<http://homepage2.nifty.com/DEFC/>

これまで3回、私が滞在中に出遭ったり見聞きした「ラオスの薬事情」についてお話ししてきました。最終回は北部僻村部のケシ栽培とアヘン中毒、都市部若者の“ヤーバー（覚せい剤）”です。

“10年前までは今居るちょうどこのあたりもケシでイッパイでした・・” 北部県の保健局員が町の中心にあるレストランで言います。“村人は、怪我をしたり病気になると手近な薬草を使いますが、良くなると霊媒（モー）を呼んで悪霊（ピー）払いをします。それでもダメだとアヘンに頼ります、病院へ行く金が無いけどアヘンは簡単に手に入るからです” “政府の指導でケシ栽培はなくなってきていますが、村人はアヘンを貸し借りの対価つまり通貨として昔から使っています。”

山岳尾根道から少し入った丘の上の村でアヘンを吸引している84歳の老人に会いました。“・・・二十歳過ぎからやっている、毎日朝夕のこれだけの生活・・・” と言って黒光りした吸引竹筒を見せてくれました。数年前に政府による解毒治療があり、多くの中毒者がこれを境にアヘンを止めました。対象年齢が50歳以下だったのでこの老人を含め3人が参加しませんでした。この3人の内一人は数年前もう一人は最近（当時）、何れもアヘンを切らせてしまって突然死にました。“だから自分は止められない” と言っていました。

以前「アヘン中毒者解毒とアヘン撲滅を達成した村人への支援」に携わった日本人の齋藤享子さんは言います。“ケシ栽培とアヘン蔓延地域は行政や医療サービスが行き届いていない山岳少数民族の人々が住んでいるところです。栽培者が必ずしもアヘン中毒者ではありません。むしろ栽培者はもっぱら供給するのみで中毒者でないことのほうが多いです。数年前まで、周辺の村人は栽培をしている村人からアヘンを簡単に手に入れられました。栽培の労賃としてアヘンを受け取っていました。”

齋藤さんは続けます。“中毒者は10歳から70歳過ぎの年寄りまで男女問わず幅広いけれど、20から30歳台の働き盛りの男性が特に多いのです。中毒要因で一番多いのは病気や怪我による痛み軽減のための吸引です。次に多いのは冠婚葬祭で回し吸いをする慣習、他は娯楽として友人らに誘われて吸引することです” “これらを繰り返すことで中毒になります。禁断症状は眠れずイライラし善悪の区別がつかなくなります。そして吸引すると満腹感に満たされ眠くなる。中毒者は体力がなくなり、怠惰になって普通に働くことができなくなります・・・” “中毒者が出るとその家庭は自給自足の生活さえもできず、日々の

食べるものにも困るほど極貧になります。夫が中毒者になると妻と子どもたちが焼き畑で細々と育てた陸稻（おかぼ）や庭先で育てたニワトリさえもアヘンを得るために使われてしまいます。” “中毒者は村内の他人のニワトリなどを盗んでアヘンを手に入れようとします。村の秩序が乱れ、ただでさえ貧しい村全体がますます貧困になって行きます。共同体が崩壊することもあります。” “2003 年以降、政府の取締りが進み栽培が減っています。アヘンの入手が困難になり結果として価格が急騰しました・・・”

“中毒者あつまれ！” まだ 20 歳台の副村長が大声で村内に呼びかけています。150 人ほどのこの村で中毒者は 36 人です。はじめに 7~8 名集まってきておしまいには 15 名になりました。「赤くはれぼったい目、蒼白でうつろな顔貌、やせて善悪の区別がつかなくなった廃人の群れ・・・」魯迅の小説に出てくる場面がそこにありました。これでもまだ軽症の人たちが来ているのですが、みな黙ってそこにいます。2~3 人がぼそぼそとしゃべるだけです、何とかしてほしいという気持ちは伝わってきます。

享子さんの記録「現在ラオスで実施されている解毒方法」

1. 「コミュニティーベース方式」 村内に村人たちが自前で解毒小屋を建て、ここで 15 日間の治療を行う方法。始めの 5~10 日間、ヤーブナムアン・ウドムサイ⁽¹⁾ と呼ばれる伝承薬を飲ませる。期間中、下痢、腹痛、嘔吐の症状が出るが多くの人には 10 日間ほどで解毒できる。この方法では家族、親戚、友人たちが治療者の給餌や身の回りの世話をするので経費が少しで済む。また経費が自己負担であることと村人たちから実質及び精神的な協力をもらうことで、治療者は心理的な負い目と治療自覚が高まる。解毒の成功率が高く再中毒率は極めて低いのがこの方法の特徴。

2. 「センター方式」 NGO や国外の資金を得て郡や県が所轄の解毒センターを行う方法。治療・滞在期間は 21 日間。始め 5~7 日間の解毒薬 Opium Tincture⁽²⁾ の投与。投薬中は下痢、腹痛、嘔吐、頭痛といった症状が生じやすく、元の持病の痛みを感じるようになったりする。7 日目ころから治療者の体調は徐々に回復し 10 日目以降は身体を大いに動かすスポーツもできるまでになる。治療 21 日間で平均 5 キロは体重が増え持病のない人はすこぶる健康になる。この方法は解毒薬購入や食費などで経費がかかるため海外援助による大型プロジェクトとして行われる。プロジェクト評価のための「治療者数実績」が重視されがち。村人や家族、近隣者の支援が届きにくいこと、経費の自己負担が少ないことで治療者の負い目や責任感が生まれにくい。このため再中毒率が極めて高い。

3. 「Cold Turkey」 中毒患者を監禁し投薬はせず自分の意志のみで解毒させる稀な例。

“治療効果を高め、再発を防ぐには村全体で取り組むことが最も効果がある”。齋藤さんが実践で得た結論です。その村を訪問しました。数年前（面談時）中毒者ゼロを達成、その後もこれを継続している村です。村長が呼びかけて 20 人ほどが集まって来ました。解毒して元の生活へ復帰した人たちです。途中の禁断症状の苦しさ、その後の回復へ向かうときの様子、今の想いを口々に語ってくれました。

“また朝早くから起きて働けるようになった。”

“おかあちゃんが喜んでくれている。”

“子どもたちを学校へやれるようになった。” でした。

皆さん生き生きしています（写真 1）。そばで聞いていた村長は誇らし気でした。



(写真1) 中毒から立ち直った村人



(写真2) 左上から右回りに、タバコ、ビール、酒、コーヒー、シンナー、覚せい剤（ヤーバー）、大麻（ガンサー）、ケシ（アヘン）

国際機関の統計ではラオスは世界第三位のアヘン生産国です⁽³⁾。栽培地域の70%がこの国の北部に集中し最貧困地域とほぼ重なります（注P.19 地図）。政府は「2006年までにアヘン・ゼロ達成」を目標としてNGOや国際機関の資金及び技術支援を得て撲滅に取り組む。2003年からは「ケシ栽培禁止、アヘン売買禁止、アヘン吸引禁止」で取り締まりを強化、「中毒者の解毒義務化」を実施しています。山岳地域に点在するケシ畑を焼き払い捕獲アヘンを焼却処分している様子を報道しています。教育でも「有害物」のポスター（写真2）を生徒向けに作っています。一定の成果が上がっていることは確かですが、栽培地域への代替換金作物や生活支援など実効性のある施策を欠いている状況です。

今回のもう一つのお話は都市部若者の“ヤーバー（覚せい剤）”です。

ヴィエンチャン郊外の郡病院医師の話です。“ヤーバーに関わる中毒と犯罪で去年は30人、今年はずでに10人が強制治療センター送りになった。ほとんど全員が18～22歳で無職の若者。買う金は親から貰うか盗み…。親の甘やかしと無関心、社会的な罪悪・道徳観念の喪失が主な背景。一方では厳しい家庭の子どもも手を出す場合もある…。本人や家族、社会的にもこの薬物の危険性が分かっていない。”

この医師によるとアヘン中毒は都市の若者にはほとんど見ない一方、覚せい剤は急増中です。この薬物（アンフェタミン）に関わる犯罪「窃盗、傷害、失火や放火、殺人、関連する交通事故」は報道されることはほとんどないのですが、その分発達している口コミ情報では深刻さを増しています。

新聞報道は以下の程度です。“…任意抽出した全国の高校生14,260人の尿検査の結果、28%の生徒がアンフェタミン陽性！ 2003年の同様の調査では3.7%であった。これは深刻な事態である…。ラオスはこれら有害薬物の通過点になっている。教育で徹底して禁止していく必要がある（ヴィエンチャンタイムズ2005年5月17と20日）。”この発表のあと、政府は高校生全員（13万人）の強制尿検査をやりと発表しました。しかし、計画は“親たちの反対”で取りやめになりました。政府の役人たちの子女も例外でないことと実施能力や費用のためだったのでしょう。はじめからアドバルーン効果を狙っただけかもしれません。アドバルーンだけでも短期間使用者を少しは減らす効果があったかもしれません。

北部僻村地域に今も残るケシ栽培、アヘン流通と中毒、周辺国を含め都市の若者たちに広がっている覚せい剤汚染、これらはつきつめると何れも“貧困”に行き着くのかもしれません。ラオスはヴェトナム戦争とこれに重なった内戦の傷跡⁽⁴⁾を 30 年経た現在も抱え、国の基盤整備はまだ始まったばかりです。急激な人口増加を吸収できる産業基盤を欠き、若者たちの働く場所がありません。発展著しい周辺国から文化と生活物資の激しい流入に曝される一方、出せるものは少なく、使える労働力として出かけていくには基礎学力から不十分です。この背景が若年層に広がる薬物問題の真の理由と思えます。

しかし、もう少し広い視野から見ると「薬物問題」はもっと人間社会の基本的な病理かもしれません。アメリカプロ野球選手の薬物汚染と題して ABC 放送は報道しています（6 月 7 日 2006 年）。“…選手控え室には「薬入り」と「薬なし」と書いたポットが置いてある。薬とはアンフェタミンである…”。アヘンおよびその精製物や誘導体はその習慣性と依存性、極度な人格破壊性のため全世界で一般人の使用はおろか所持も厳禁です。しかし、歴史を紐解くと人間とアヘンとのかかわりはとても古いことが分かります。近代史ではアヘンチンキが西欧で一時期もてはやされ、「大英帝国」や「日本の満州国」その他の戦争などで最も暗く陰惨な背景でもありました。過去に遡らずとも、現代でも戦争や紛争、破壊、貧困、犯罪と強く結びついています。過去数年間のアフガニスタンの例がこれを示しています⁽³⁾。ラオスのケシ栽培は減っていく方向ですが、ぶり返すこともあるかもしれません。都市若年層のヤーバーは周辺国の急激な経済発展の狭間でさらに増幅されていくと思えてなりません。

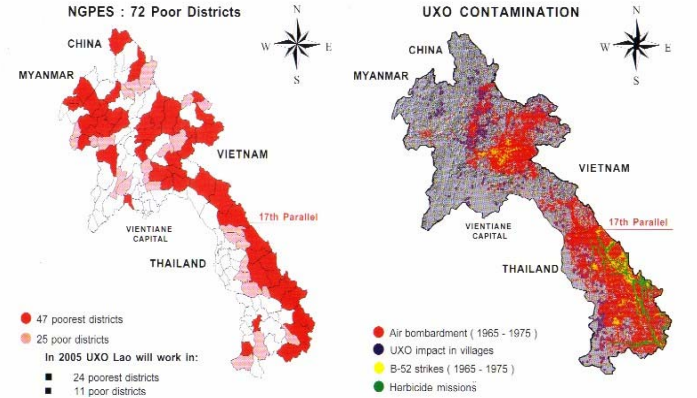
謝辞 JAPIC がおはなしの機会を与えて下さったことへ感謝します。内容は日記や集めた資料をもとに可能な限り具体的に書くことに努めました。執筆に際し、私の元秘書 Ms. Saysamone Khamsoukthavong と、私が敬愛する齋藤享子さんに（ブログ“わくわくするもの” <blog <http://blog.goo.ne.jp/pietlao/>> 追加資料や助言をいただきました。ご紹介し謝辞とします。

脚注

- (1) ウドムサイ伝統薬： ウドムサイ県で製造されている伝統薬、県保健局が販売、格安であるため支援がないアヘン中毒解毒治療においてよく利用されている。
- (2) Opium Tincture： タイで製造されている解毒薬、輸入品であり値段が高い。
- (3) 世界の非合法アヘンについて BBC 放送は「…前政権崩壊後のアフガニスタンで急激に伸び、2005 年実績で全世界の 87%を生産して第一位」と伝えています（2006 年 2 月 7 日）。
- (4) 戦乱の傷跡で最も大きいものは残留未発弾（通称 UXO： Unexploded Ordnance）です。主にヴェトナム戦争時（1964–1973） アメリカ軍によってラオス領内のホーチミン・ルートへ投下されました。この内の 20–30%が未発（不発）のまま今も残っています。農耕地はもとより、住民居住地域や学校の校庭にも見つかる状況です。残留地域は最貧困地域と重なっています。



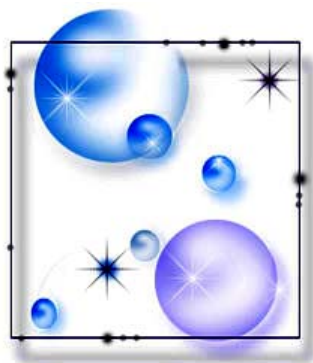
ラオス地図 ケシ栽培地域は
ラオス北部国境周辺地域



ラオス最貧困地域地図
色の濃い部分、山岳国
境地域が多い

残留不発弾（UXO）が
今も多量に残る地域、
色の濃い部分、最貧困地域
に重なる

ラオス薬事情は今回で終了します。
次号からネパール王国を連載いたします。



＜新着資料案内 平成 18 年 6 月 14 日～平成 18 年 7 月 13 日受け入れ＞

図書館で受け入れた書籍をご紹介します。

この情報は附属図書館の蔵書検索 (<http://www.libblabo.jp/japic/home32.stm>) の図書新着案内でもご覧頂けます。これらの書籍をご購入される場合は、直接出版社へお問い合わせください。閲覧をご希望の場合は、JAPIC 附属図書館（電話 03-5466-1827）までお越し下さい。

〈 配列は書名のアルファベット順 〉

書名 著者名	出版社名	出版年月	ページ	定価
第十五改正日本薬局方 解説書 2006				
杉山 雄一 他編	廣川書店	2006年 6月	5分冊	¥99,750
毒物劇物取締法事項別例規集 第9版				
毒物劇物関係法令研究会 監修	薬務公報社	2006年 7月	699p	¥4,830
医薬部外品原料規格 2006				
薬事日報社	薬事日報社	2006年 6月	3分冊	¥42,000
医薬品製造販売用語事典				
手島 邦和、中村 健 編著	じほう	2006年 3月	343p	¥4,200
情報の私有・共有・公有 ユーザーからみた著作権				
名和 小太郎 著	NTT出版	2006年 5月	282p	¥2,625
呼吸器学用語集 改訂第4版				
日本呼吸器学会 編	日本呼吸器学会	2006年 5月	265p	¥2,000
今日の小児治療指針 第14版				
大関 武彦 他編	医学書院	2006年 5月	863p	¥16,800
抗菌薬の選択と使い方 外科領域 改訂第4版				
品川 長夫 著	医薬ジャーナル社	2006年 6月	453p	¥5,145
抗精神病薬の「身体副作用」がわかる－The Third Disease				
長嶺 敬彦 著	医学書院	2006年 7月	179p	¥2,520
くらべてわかるジェネリック医薬品データブックーベストチョイス150				
地域薬局GE研究会 編	薬事日報社	2006年 6月	322p	¥4,515
脳神経外科用語集 改訂第2版				
日本脳神経外科学会用語委員会 編	南江堂	2006年 6月	452p	¥4,935
オレンジブック保険薬局版 2006年4月				
日本薬剤師会 編	薬事日報社	2006年 4月	331p	¥4,515

書名	著者名	出版社名	出版年月	ページ	定価
PDR 27th ed. 2006-PDR for nonprescription drugs, Dietary Supplements, and Herbs. The Definitive Guide to OTC Medications	Neil Chesanow et al ed.	Thomson PDR	2006年	406p	¥10,371
PDRのOTC薬版。サプリメント、ハーブ療法も掲載されている。					
Red Book Pharmacy's Fundamental Reference 2006 Edition	Thomas Fleming ed.	Thomson Healthcare	2006年	12p	¥10,332
アメリカの医薬品の価格表。OTC薬、医薬部外品、医療用具等も収載。					
理・工・医・薬系学生のための学術情報探索マニュアル 電子ジャーナルから特許まで	学術情報探索マニュアル編集委員会 丸善編		2006年 5月	193p	¥1,680
整形外科科学用語集 第6版	日本整形外科学会 編	南江堂	2006年 6月	573p	¥4,620
先発医薬品・後発医薬品適応症相違一覧 2006年5月版	薬事日報社 編	薬事日報社	2006年 6月	94p	¥1,365
処方せん医薬品・処方せん医薬品以外のリスト 2006年4月版	薬事日報社 編	薬事日報社	2006年 5月	371p	¥2,520
スタンダード薬学シリーズ 1 ヒューマニズム・薬学入門	日本薬学会 編	東京化学同人	2005年 4月	325p	¥4,410
スタンダード薬学シリーズ 2 物理系薬学 I. 物質の物理的性質	日本薬学会 編	東京化学同人	2005年 2月	335p	¥4,620
スタンダード薬学シリーズ 2 物理系薬学 II. 化学物質の分析	日本薬学会 編	東京化学同人	2005年 5月	252p	¥3,570
スタンダード薬学シリーズ 2 物理系薬学 III. 生体分子・化学物質の構造決定	日本薬学会 編	東京化学同人	2006年 2月	224p	¥3,570
スタンダード薬学シリーズ 3 化学系薬学 II. ターゲット分子の合成と生体分子・医薬品の化学	日本薬学会 編	東京化学同人	2005年 9月	266p	¥3,780
スタンダード薬学シリーズ 3 化学系薬学 III. 自然が生み出す薬	日本薬学会 編	東京化学同人	2005年 10月	294p	¥4,410
スタンダード薬学シリーズ 4 生物系薬学 I. 生命体の成り立ち	日本薬学会 編	東京化学同人	2005年 3月	307p	¥4,305
スタンダード薬学シリーズ 4 生物系薬学 II. 生命をミクロに理解する	日本薬学会 編	東京化学同人	2005年 6月	412p	¥5,565
スタンダード薬学シリーズ 4 生物系薬学 III. 生体防御	日本薬学会 編	東京化学同人	2006年 3月	226p	¥3,570
スタンダード薬学シリーズ 5 健康と環境	日本薬学会 編	東京化学同人	2006年 3月	472p	¥6,405

書名	著者名	出版社名	出版年月	ページ	定価
スタンダード薬学シリーズ 6 薬と疾病 I. 薬の効くプロセス	日本薬学会 編	東京化学同人	2005年 10月	428p	¥5,880
スタンダード薬学シリーズ 6 薬と疾病 II. 薬物治療(1)	日本薬学会 編	東京化学同人	2005年 10月	410p	¥5,565
スタンダード薬学シリーズ 6 薬と疾病 III. 薬物治療(2) および薬物治療に役立つ情報	日本薬学会 編	東京化学同人	2005年 12月	328p	¥4,830
スタンダード薬学シリーズ 7 製剤化のサイエンス	日本薬学会 編	東京化学同人	2006年 2月	203p	¥3,360
スタンダード薬学シリーズ 8 医薬品の開発と生産	日本薬学会 編	東京化学同人	2005年 1月	228p	¥3,570
スタンダード薬学シリーズ 10 実務実習事前学習 病院・薬局実習に行く前に	日本薬学会 編	東京化学同人	2006年 3月	404p	¥5,880
特定保険医療材料及びその材料価格 材料価格基準早見表 平成18年4月版	じほう	じほう	2006年 5月	1,086p	¥21,000
薬学生・薬剤師のための知っておきたい一般用医薬品	日本薬学会 編	東京化学同人	2006年 3月	250p	¥2,730
前立腺癌診療ガイドライン 2006年版	日本泌尿器科学会 編	金原出版	2006年 5月	233p	¥4,200



＋ 情報提供一覧

平成 18 年 7 月 1 日から 7 月 31 日の期間に提供しました情報は次の通りです。
出版物がお手許に届いていない場合、宛先変更の場合は当センター事務局業務・渉外担当
(TEL.03-5466-1812) までお知らせ下さい。

情 報 提 供 一 覧	発行日等
<出 版 物 等>	
1. 「医薬関連情報」 7 月号	7 月 31 日
2. 「Regulations View」 No.131	7 月 31 日
3. 「JAPIC NEWS」 No.268	7 月 31 日
4. 「JAPIC 医療用医薬品集インストール版 2006 年 7 月版」	7 月 31 日
<速報サービス>	
1. 「医薬関連情報 速報 FAX サービス」 No.542－545	毎 週
2. 「医薬文献・学会情報速報サービス (JAPIC-Q サービス)」	毎 週
3. 「JAPIC-Q Plus サービス」	毎月第一水曜日
4. 「外国政府等の医薬品・医療用具の安全性に関する措置情報サービス (JAPIC Daily Mail)」 No.1255－1274	毎 日
5. 「感染症情報 (JAPIC Daily Mail Plus)」 No.147－151	毎週月曜日
6. 「PubMed 代行検索サービス」	毎月第一・三水曜日
デ ー タ ベ ー ス 一 覧	更 新 日
iyakuSearch < http://database.japic.or.jp/ >	
1. 医薬文献情報	月 1 回
2. 学会演題情報	月 1 回
3. 医療用医薬品添付文書情報	月 2 回
4. 一般用医薬品添付文書情報	随 時
5. 規制措置情報	毎 日
6. 臨床試験情報	随 時
7. 日本の新薬	テストリリース中
<JIP e-InfoStream から提供> < https://e-infostream.com/ >	
1. 「JAPICDOC 速報版 (日本医薬文献抄録速報版)」	月 1 回
2. 「JAPICDOC (日本医薬文献抄録)」	月 1 回
3. 「ADVISE (医薬品副作用文献情報)」	月 1 回
4. 「MMPLAN (学会開催予定)」	月 1 回
5. 「SOCIE (医薬関連学会演題情報)」	月 1 回
6. 「NewPINS (添付文書情報)」 (月 2 回更新)	月 2 回
7. 「SHOUNIN (承認品目情報)」	月 1 回
<JST JDream II から提供> < http://pr.jst.go.jp/jdream2/ >	
「JAPICDOC (日本医薬文献抄録)」	月 1 回